

あとがき

針塚長太郎先生追想録刊行の議が正式に決定したのは、昭和三十五年十一月の千曲会総会においてだった。そして、「針塚長太郎先生追想録刊行会」を結成して遂行することになった。

最初学内関係者が協議の結果、地域・卒業期などを考慮して、全国的に刊行委員を選定お願いし、そのうちから代表委員・編集委員などをお願いすることになった。最初の刊行委員会は、昭和三十六年二月に開かれたが、後記のように代表委員・編集委員・連絡委員を決定した。

昭和三十六年四月、代表委員の一人蒲生俊興、編集委員の鈴木教吾・猪坂直一の二氏、及び千曲会群馬支会の有志は、群馬県渋川市中村に針塚正樹氏をお訪ねし、正式に追想録刊行の御了解と今後の御援助をお願いした。その後、針塚家には委員が数回お邪魔して、貴重な文書・写真をお借りし、また多くの事実・参考資料等をいただいた。先生の幼な友大谷惣三郎翁・先生の実弟針塚卯八氏・奥様の御妹伊東かう様・岩崎喜三郎先生・新楽顕理先生等にも貴重な事実を承り、伝記中随所に資料として使わせていただいた。また千曲会群馬支会の各位には、一カ年近くの間、各面にわたって終始一方ならぬ御援助をいただいた。これらの方々に對して厚くお礼を申し上げます。

針塚先生が逝去されてすでに十三年になるが、短日月のうちに百にあまる追想記が寄せられた。これら追想記を寄せられた方々に深い感謝の念を献げると共に、先生の御徳が如何に深く広かっ

たかを具体的、実証的に知ることが出来て有難いことであつた。針塚正樹氏からは本事業に對し多額の御寄附をいただいた。また松村博氏（故季美氏一蚕一嗣子）、土屋登美次氏（故高橋清七先生令息）、及び多数千曲会員から篤志寄附をいただいた。誠に感謝に堪えない次第である。

各委員は、それぞれの立場において本事業の推進につとめたのであるが、とくに鈴木教吾氏は、伝記資料の収集に格別の努力を払われ、また秋冬二回、のべ七十日間を千曲会館に籠り、伝記の執筆と追想記の整理とに精進された。本事業は氏の熱意に俟つことが甚だ多いことをこゝに明記して感謝の意を表する次第である。なお、本書刊行の事務、資料の収集、印刷所との交渉並びに校正等主として其の衝に当り、熱心に努力された連絡委員松尾卓見氏の労を多とし、茲に併せて感謝の微意を表す。

（昭和三十七年五月十五日 蒲生俊興記）

針塚長太郎先生追想録刊行会

代表委員

蒲生 俊興
倉沢 美徳

林 貞三

野口新太郎

（信州大学繊維学部部長）小泉 清明

（千曲会理事）荻原 清治

編集委員

鈴木 教吾
猪坂 直一

連絡委員

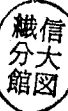
（千曲会総務理事）山口定次郎
（千曲会出版部理事）松尾 卓見

昭和三十七年九月十日印刷
昭和三十七年九月二十日發行

〔非売品〕

編集者 針塚先生追想録刊行委員会

発行者 針塚先生追想録刊行会



印刷所 信教印刷株式会社

長野市旭町一〇九八

上田市常入信州大学織維学部内

発行所 社団法人 千 曲 会